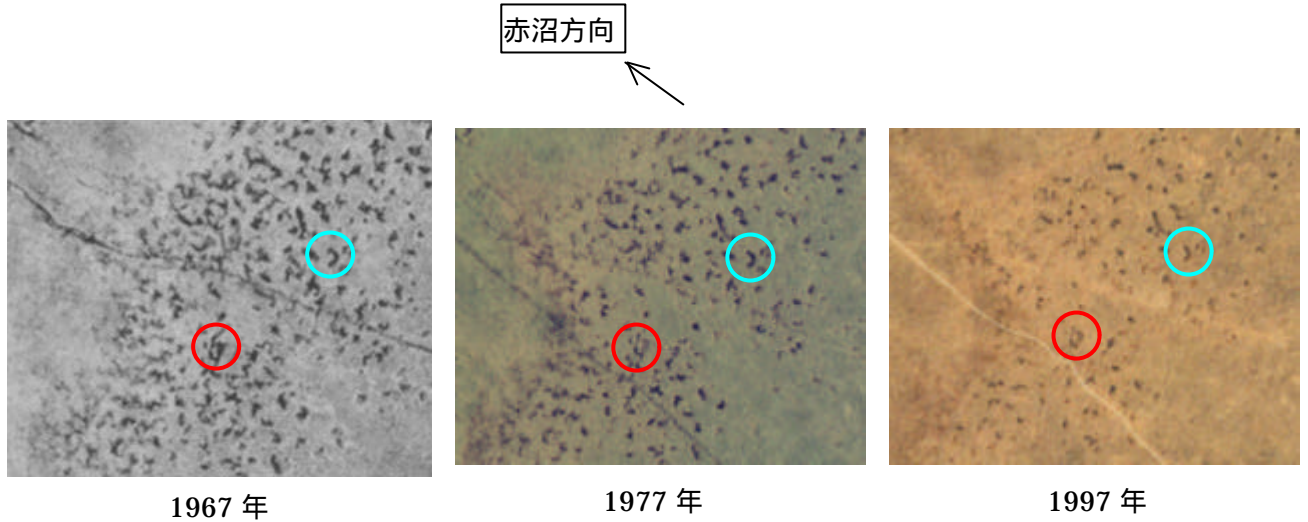


6) 池塘の変遷

赤沼周辺の池塘の状況を図5-11に示す。池塘数は1967年から1997年までの30年間で減少している。また、1967年から1977年の間に赤沼までの木道が変わっており、その周辺の池塘が消失している。



1967年

1977年

1997年

：同じ池塘

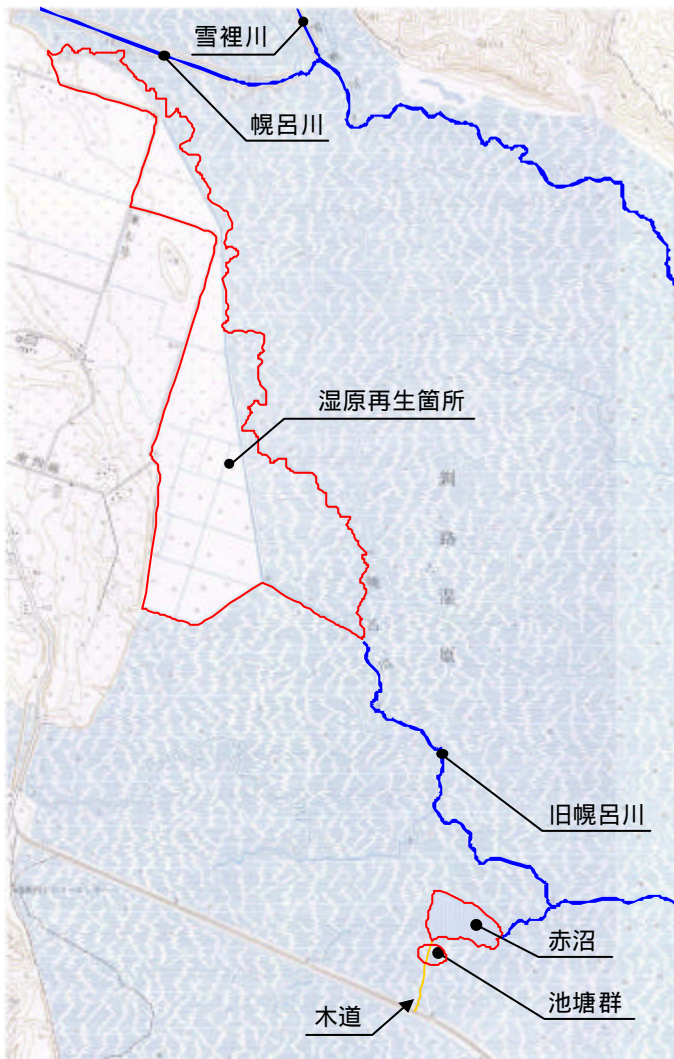


図 5-11 赤沼付近の池塘の状況

(3)社会環境・自然環境の変遷の整理

1) 社会環境の変遷

鶴居村の基幹産業は酪農主体の農業であり、雪裡川及び幌呂川の流域では、国営農地改良事業により、草地と排水路が整備された。

台地部や河川沿いで牧場や牧草地による土地利用が進み、森林や湿原域からこれらに置き代わってきている。

2) 自然環境の変遷

河川の変遷

・改修区間

鶴居村幌呂地区の市街周辺より下流は、直線的な河道で、雪裡川と合流するよう改修されている。

これにより、河道内の流下能力が向上し、下流への土砂移動が増し、下流の合流点周辺では、上流から運搬されてきた土砂が河道内に堆積している。

・湿原内の未改修区間

雪裡川合流点より下流の未改修河道は、流下能力が不足し、不規則蛇行を形成している。不規則蛇行が発生した直後に分岐流路を持つ。

植生の変遷

昔と現在のハンノキ林を比較すると、湿原内で広範囲にハンノキ林が増加した範囲として、以下の部分が抽出される。

雪裡川合流前：雪裡川合流前の直線河道右岸周辺

- ・ 幌呂川は、雪裡川と合流させたことで、下流部に残存する旧幌呂川の流量が減少し、ハンノキ林が拡大している。

雪裡川合流後：雪裡川合流後の分岐流路周辺

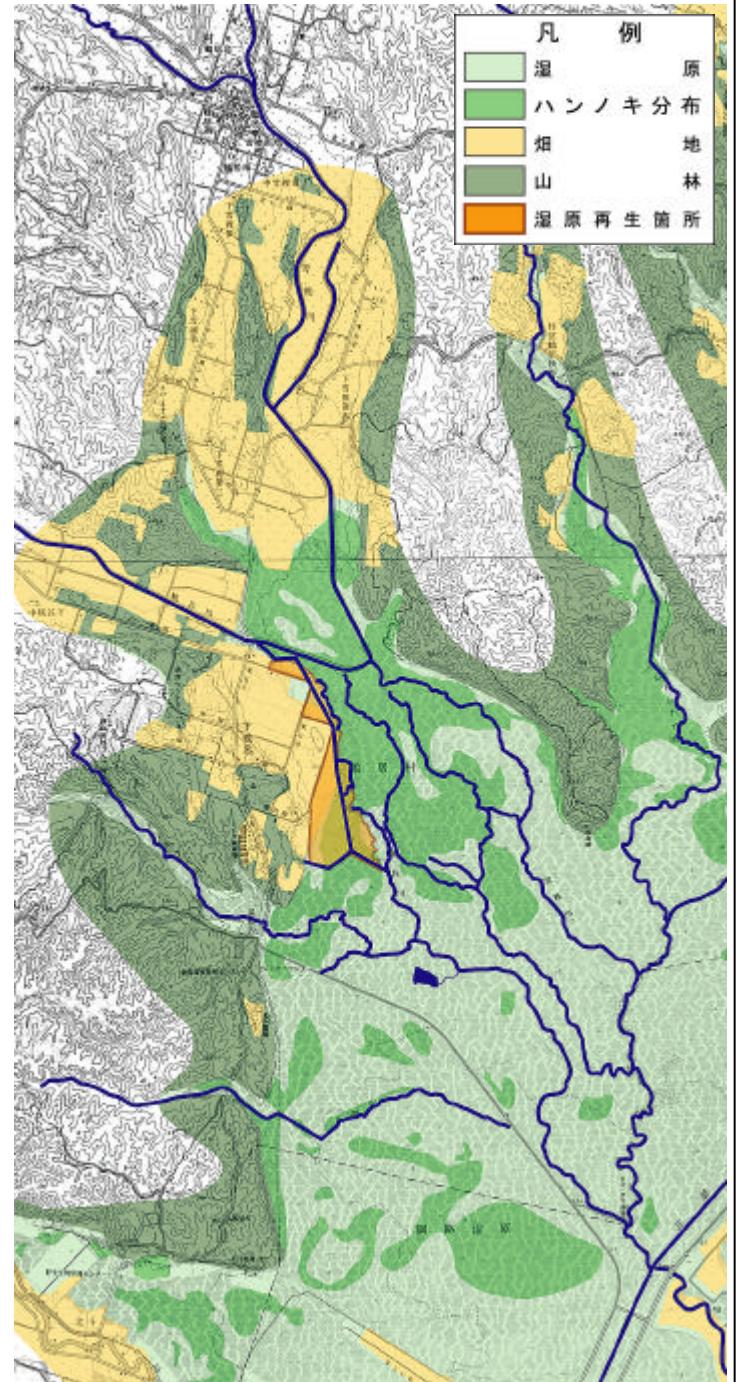
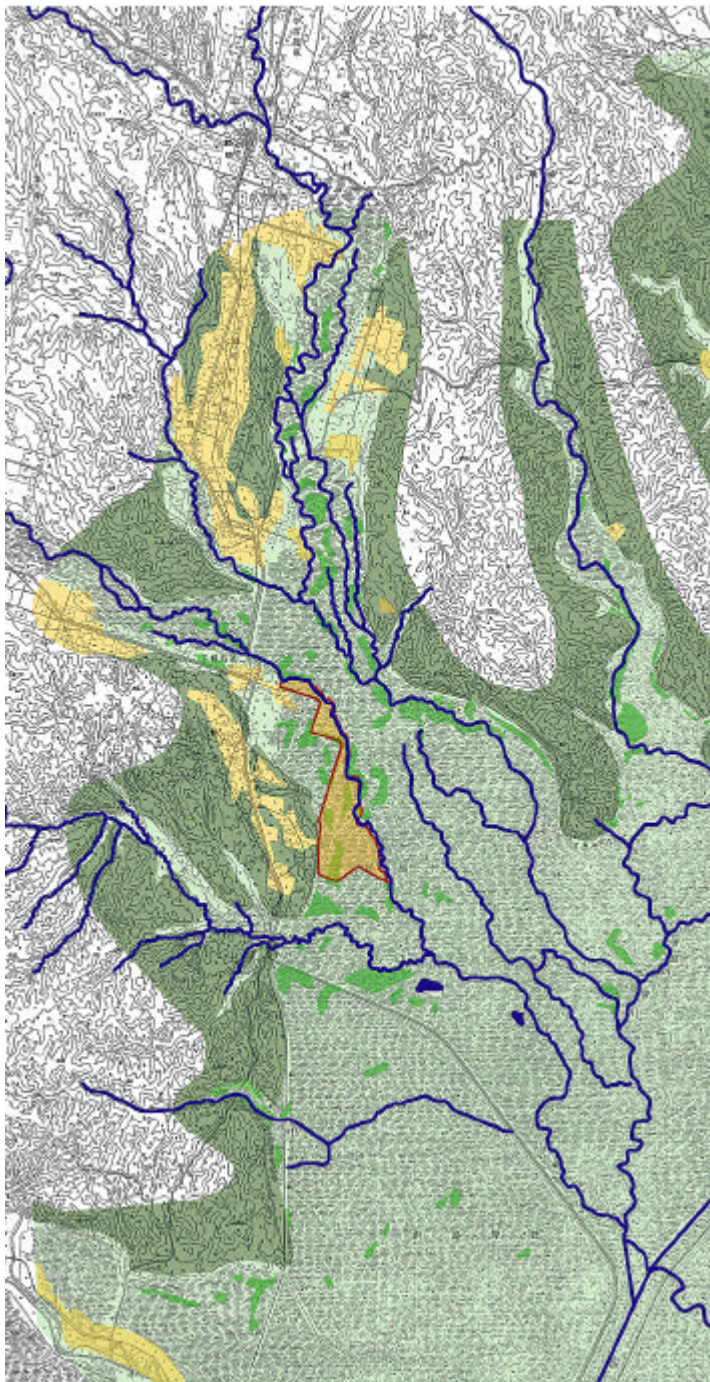
- ・ ハンノキに加えてヤナギ等が進入した樹林が河川沿いに拡大している。

合流点の下流域

- ・ 合流点下流の流路が過去から大きく変化し、流路周辺にはハンノキ林が拡大している。

湿原再生箇所

- ・ 台地縁辺部のため、元々ハンノキ林は点在していたが、耕作地以外でも範囲が拡大している。



1947年の湿原及び周辺部の状況

湿原域が河川沿いに広がっており、ハンノキの分布も少ない。

1996年の湿原及び周辺部の状況

河川沿いや台地部において土地利用が進み、農地化されている。農地部分では河川改修が行われ、捷水路化されている部分も見られる。

これに伴って湿原域は減少し、また湿原域においてもハンノキ林の範囲が拡大している。

図 5-12 下幌呂地区の湿原及び周辺の状況